

フォーラム「フランスから考える民俗資料の収集保存と活用方法」開催要項

日時：2023年10月31日（火）13:15-16:50

主催：民俗資料保存活用研究会

対象：博物館関係者および一般（講演や質疑応答はすべて日本語です）

会場：日本新聞博物館（横浜市）イベントルーム教室およびZoom中継

定員：対面40名（事前申込制、9/1開始）およびZoom300人

料金：会場参加400円（入館料）、Zoom参加無料

ウェブページ：<https://nodaiweb.university.jp/muse/unisan/minzoku/yokohama.html>

Zoom：ミーティングID: 816 0929 2245 パスコード: 155548

<https://us02web.zoom.us/j/81609292245?pwd=M1RpaUVaWHpQbnRWVWVNGRTBSaUNjdz09>



日程

- | | |
|-------------|--|
| 13:00 | 開場 |
| 13:15-13:25 | 問題提起「あふれかえる民俗資料の未来」
宇仁義和（東京農業大学オホーツクキャンパス） |
| 13:25-13:55 | 報告1「民俗資料の収集と保存に関する小規模地方博物館の状況」
持田誠（浦幌町立博物館） |
| 14:00-15:30 | 講演「フランスの博物館と民俗資料の収集保存と活用」
アリス・ベルトン（グルノーブル・アルプ大学）
1) フランスの博物館制度と関連法令
2) フランスでの民俗資料コレクションへの考え方や保存の方法
3) フランスの用具製品の保存と活用の現状と課題、今後の方向性 |
| 15:40-16:10 | 報告2「民俗資料のメタデータと情報化保存の可能性」
本間浩一（慶應義塾大学附属システムデザイン・マネジメント研究所） |
| 16:15-16:45 | 総合討論 |



アリス・ベルトン氏近影

目的：電化製品や大量生産品、その他の生活資料や産業資料を含んだ「民俗資料」は、学術的な評価が得られず死蔵につながりやすく、一部で資料の廃棄や譲渡が始まっている。このなかから量産品や工業製品を含む用具製品に焦点を当て、フランスの状況を参考比較にしつつ、博物館での収集保存と活用のあり方を考えていきたい。地方博物館や小規模館による連携と役割分担、複数館の学芸員の機能分化が実現する未来を構想しつつ。

講師紹介

アリス・ベルトン Alice Berthon（グルノーブル・アルプ大学 Université Grenoble Alpes 講師）

パリ第10大学でギメ美術館とケ・ブランリーの日本コレクションに関する論考で修士号、国立東洋言語文化研究所（INALCO）で「Le Japon au musée. Le Musée national d'ethnologie et le Musée national d'histoire et de folklore: histoire comparée et enjeux」（博物館における日本 国立民族学博物館と国立歴史民俗博物館：歴史と課題）で博士号を取得した。日本には幼少期と大学院生時代など通算4年滞在経験がある。現在は富山県をフィールドに文化教育政策と地域博物館の関係を研究中。

問合せ申込先：099-2493 北海道網走市八坂196東京農業大学生物産業学部
博物館情報学研究室 宇仁義和（うに・よしかず） unisan@m5.dion.ne.jp